

ハンセン病の医療に関する研修会 ～地域でのケアについて～



講話：『ハンセン病における足の変形に関連したキズ』
講師：貴クリニック 院長 東盛 貴光 氏

事例：『病院での課題について』

講師：神谷 正和 氏（当事者）

講師：沖縄県ゆうな協会 医療・介護の相談窓口担当ソーシャルワーカー
沖縄県医療ソーシャルワーカー協会 理事 樋口 美智子 氏



講話：『フットケアについて』

講師：ハートライフ病院 皮膚・排泄ケア認定看護師 宮平 良太 氏

講話：『足を守るために』

講師：ハートライフ病院 理学療法士

日本フットケア・足病医学会認定師 仲村 和也 氏



実技：『ケアの実際について』

講師：平良 仁雄 氏（当事者）

司会：喜納 美津男 氏

○日 時：令和5年6月28日（水） 午後7時00分～9時00分

○場 所：那覇市医師会・4階ホール

○参加者：26名

【目的】沖縄県内にはハンセン病の回復者が少なくとも500名以上おり、那覇市内に暮らしている方も多いと想定される。年齢は70代後半～80代以上と高齢化し、今後ますます医療・介護のニーズが見込まれる。しかし、後遺症の傷をケアできる診療所が殆どなく、遠方の愛楽園まで通院している現状があり、当事者より住み慣れた地域でのケアが求められている。一方、回復者にはかつての国の隔離政策による差別・偏見に対する恐怖心もあり、受診の際の配慮も必要であることから、ハンセン病問題の普及啓発および地域でケアが受けられる体制整備を目的に当研修会を開催する。

【対象】病院、在宅医療・介護関係者、地域包括支援センター、行政、支援団体等

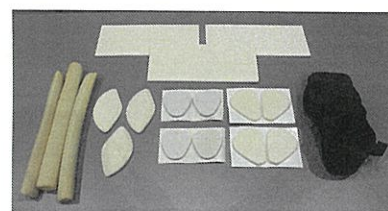
【考察】参加者は医師を中心にケアマネジャーや看護師の参加が多かった。参加者より、「ハンセン病のことをまだまだ理解できない人々が多く、皆様に心苦しい思い、ケアが遅れ不自由な思いをされていると思った。これから支援体制を整えることの必要性を感じた」という感想が多かった。今回の研修会を通してハンセン病問題に関心を持ち、正しい知識を身に付け、ハンセン病回復者の地域でのケアについて考えるきっかけに繋がれば幸いである。



実技：『ケアの実際について』



質疑応答



主なフットケア用品

日時：令和5年6月28日（水） 19：00～21：00

場所：那覇市医師会・4階ホール

講師：①『ハンセン病における足の変形に関連したキズ』東盛 貴光 氏

②『病院での課題について』当事者、樋口 美智子 氏

③『フット・ケア』宮平 良太 氏

④『足を守るために』仲村 和也 氏

参加者：26名

アンケート回答者：18名（回答率：69.2%）

1. 職種の内訳

職種	人数	割合
医師	3	17%
看護師	2	11%
介護支援専門員	4	22%
社会福祉士	3	17%
行政	2	11%
その他	4	22%
総計	18	100%

2. 演題：『ハンセン病における足の変形に関連したキズ』（講師：東盛 貴光 氏）について、ご意見・ご感想等をお聞かせください。

- ・皮膚・形成専門のクリニックが病院（入院）と連携し、早く治す、長く予防する、効果を高める事が地域住民に求められていることを実感しました。
- ・分かりやすかったです。
- ・写真で病状・経過など見ることができ、分かりやすかったです。
- ・足のケアをすることで、傷の予防になったり、早期発見につながると知りました。私は医療従事者ではないので専門的なことは分かりませんが、足裏のケアが重要だということ、ハンセン病後遺症での足の傷がどのようなものなのか知る事ができて、後遺症による日常生活の大変さを理解することが出来ました。
- ・分かりやすい説明でとても参考になりました。爪の治療にいろんな専門職が関わりチームケアで行うことはとても素晴らしいと思えた。
- ・足の診療のポイントが分かりました。ハンセン病と糖尿病患者のシャルコー足（足病変）の違いが分かりました。
- ・ハンセン病についての基本的な病気の説明とその経過についてご講話願いたい。
- ・ハンセン病後遺症で足の変形潰瘍は必発するのか。
- ・実際の疾患に関わる機会が少ないため、大変勉強になりました。
- ・フットケアに対するチーム医でのケアの重要性がよく分かりました。患者様が自宅に戻られた時、訪問看護師もチームの一員として関わられたらいいと思いました。在宅でのフットケア見直したいと思います。
- ・ネイルケア、フットケアの大切さを学ぶ事が出来ました。経営面で課題があり、チーム医療で対策していくにも知識・技術が必要になってくると感じました。

3. 演題：『病院での課題について』（講師：当事者、樋口 美智子 氏）について、ご意見・ご感想等をお聞かせください。

- ・ご本人の生の声を聞いて、より理解できました。
- ・医療と介護の連携は当事者の声を聞きながら、適切な治療を提供することの大切さを学びました。後遺症も事前に把握し、チーム医療で共有することに取り組みたいと思います。
- ・当事者の方々のお話を聞き、ハンセン病のことをまだまだ理解できない人々（私も含めて）が多く、皆様に心苦しい思い、ケアが遅れ、不自由な思いをされていると思った。これから学習していきます。
- ・勇気を持って自身の体験を報告してもらい、学びを得ることが出来ました。一般病棟に勤める者として、当事者の置かれている状況や背景等をしっかり把握、理解し関わっていかれたらと思いました。
- ・ハンセン病回復者の方達が置かれている現状を知り、支援体制を整えることの必要性を感じました。
- ・ハンセン病患者の置かれている状況を把握する必要があると思いました。
- ・当事者が困っている事を生の声で聞いて分かりやすかったです。
- ・貴重なお話し、ありがとうございました。ハンセン病についての知識、理解を深め、訪問看護として出来ることを考えていきたいと思っています。
- ・主にハンセン病の「後遺症」について理解できていない医療関係者の現状があり、そこが良く分かりました。今後ハンセン病の方を診察する時は「何でも言える環境づくり」を念頭に置きたいと思っています。
- ・医療に関わる者として、当事者の事を理解して話しやすい様にする事を心がけていきたいと思いました。

4. 演題：『フット・ケア』（講師：宮平 良太 氏）について、ご意見・ご感想等をお聞かせください。

- ・足浴の目的やポイントが分かりやすかったです。また、爪を切るときのポイントと注意点を意識して現場に持ち帰ります。
- ・普段、足をちゃんと見ることは少ないですが、高齢者のフットでは陥入爪や乾燥などが多く、専門医や看護師の介入が必要だと医療現場では感じていました。入院中または外来でしっかりアセスメントして治療や教育につなげることは大切だと実感しました。
- ・フットケアの行い方が、細かく説明されていて分かりやすかったです。
- ・病状や足の形などによってオススメの靴下の使い分けなど知りたいです。
- ・フットケアにもきちんとしたやり方があり、フットケアをすることが大切だと知ったので、セルフでもやってみようと思いました。まずは自分でもやってみて、フットケアの理解度を高めたいと思いました。
- ・ネイルケアとても参考になりました。技術が必要ですね。
- ・セルフケア指導は良かった。
- ・具体的なフットケア、ネイルケアの方法が分かりやすかったです。
- ・フットケアについて理解のあるナースが医療スタッフが少ない中、基本的なケアについて分かりました。
- ・ネイルケア、フットケアの技術を学ぶ事ができて良かったです。セルフケア指導も患者様に行っていけるようにしたいと思います。

5. 演題：『足を守るために』（講師：仲村 和也 氏）について、ご意見・ご感想等をお聞かせください。

- ・普段、意識して見ることのない足の重要性が分かりやすい内容でした。
- ・アライメントの調整や、オーダーメイドのインソールを患者さんごとに作製すると、皮膚の改善や再発予防につながることを学びました。
- ・インソールや靴は高いイメージがあり、装具の調整等のアドバイスがしにくいと感じていたが、とても大事なことだと思いました。
- ・傷のある、なしで対処法が変わる事を学べてよかった。家族や周りの方のフットチェックで予防できると学んだので、足のゲートキーパーになれるように意識していきたいと思いました。
- ・意識的にフットチェックを行うということですが、なかなか足を見せてくれる方は少なく、痛みなどの症状は確認できても、実際に見ることが出来ない場合、どう確認してよいか。
- ・周りにいる人達が気にかけることで、足のケガの発見や、足の変化に早く気付けるようになると思いました。気にかける事なら私にもできると思ったので、回復者の方達と接する時は、状態を聞いてみようと思いました。
- ・なかなか足まで見ることはなかったので、これからは足を見るようにしようと思います。
- ・理学療法士の視点で話されたのが良かった。
- ・装具、参考になりました。
- ・インソールや除去のためのフェルトなど実際の写真があって、分かりやすくイメージしやすかったです。
- ・一緒にやっている仕事内容ですが、改めて状況に応じたオプションの多さに驚きました。
- ・フェーズごとに必要な事をまとめられてとても分かりやすかったです。足を守るゲートキーパーとして、足の変化に気付ける様に心がけ、知識・技術向上していきたいと思いました。

6. 研修会全体を通して、ご意見・ご感想等をお聞かせください。

- ・ハンセン病の知識がなかったので、また当事者の話を聞いて良かったです。
- ・なかなかないテーマ。また月間に合わせた時期でしたのでいい機会でした。本市でも、今後高齢者が増えているのでより医療と介護の連携が必要になると感じる。
- ・いずれのテーマも大変有意義でありました。
- ・それぞれの現場が地域住民のためになっている事、実演頂いたお二人の回復者も専門医で診ていくことで日常生活が送れていると感じました。ご発言ありがとうございました。
- ・平良さんのセルフケアや足のことを聞いてご自身のこと（体の事）をとても熟知されているなと感じました。いかに自分が気にしていないかという事にも気づかされました。
- ・ハンセン病後遺症による足のケアの重要性や回復者の置かれている現状を知ることができたので、参加して良かった。また、普段見ることが出来ないフットケアのやり方など貴重な機会になった。
- ・地域でハンセン病で爪に問題を抱えた方が相談に来た時に紹介できる病院の情報がなかった。話を聞くだけになっていました。
- ・ハンセン病の方も高齢者になり、愛楽園まで行くのが大変と聞いていたので、相談できるクリニックがあるのはとても心強いです。
- ・介護保険の訪問看護や訪問リハビリとの連携も必要になると思います。
- ・ハンセン病の方は1つの治療が終了したら、それで終わりではなく、一生続くのだと感じました。
- ・ハンセン病の「後遺症」について医療従事者への理解を深めるよう継続してこの会を行っていただきたいと存じます。
- ・当事者の思いや現状を知る良い機会になりました。
- ・とても勉強になる研修会ありがとうございました。